

河南町ひとつくりビジョン（人口ビジョン）（案） 概要版

I. はじめに

1. 背景

- * 日本は人口減少時代に入
- * 国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」では、「人口減少がこのまま続けば、人口は急速に減少し、その結果、将来的には経済規模の縮小や生活水準の低下を招き、究極的には国としての持続性すら危うくなるのである。」と警鐘を鳴らす
- * 河南町の人口は、平成 17(2005)年国勢調査の 17,545 人をピークに、平成 22(2010)年の国勢調査で減少に転じた

2. 人口ビジョン

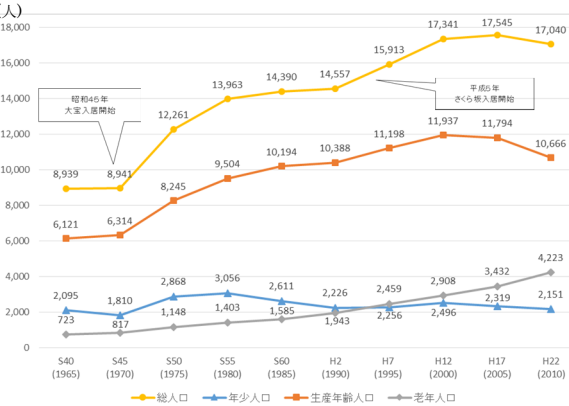
- * 国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を踏まえ、河南町の人口を分析し、人口減少問題に関する住民の認識の共有、平成 72(2060)年までの将来の方向と人口の展望を示すもの

II. 河南町の人口の現状

1. 人口

◎大規模住宅団地開発により人口は 2 倍に。平成 17(2005)年の 17,545 人をピークに減少

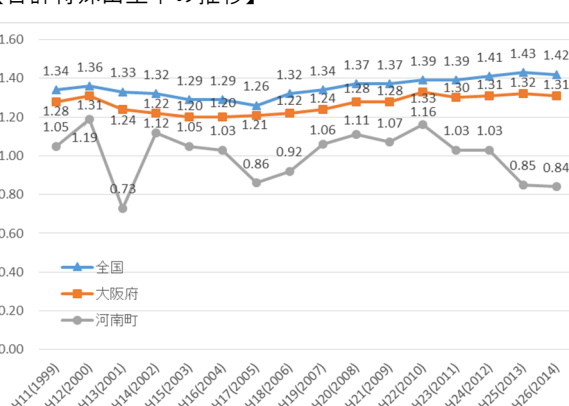
【人口の推移】



2. 自然動態

◎合計特殊出生率は平成 24(2012)年までは、概ね 1 から 1.2 の間で推移。平成 25(2013)年以降下降傾向

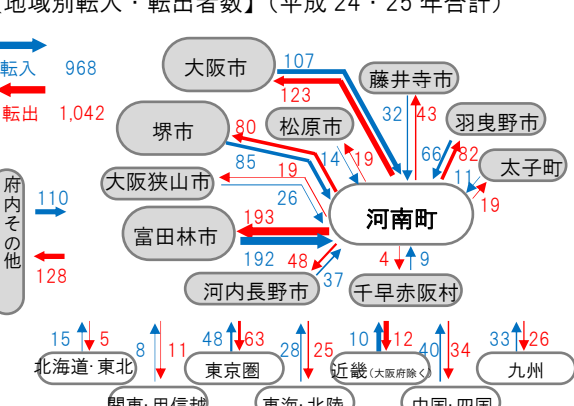
【合計特殊出生率の推移】



3. 社会動態

◎羽曳野市、大阪市、近畿圏、東京圏などで転出超過

【地域別転入・転出者数】(平成 24・25 年合計)



III. 社会保障・人口問題研究所による人口推計

- * 平成 52(2040)年には 12,500 人程度、平成 72(2060)年には 8,900 人程度
- * 平成 22(2010)年を基準とすると、平成 52 年には 27%減、平成 72 年には 48%減
- * 平成 22(2010)年以降、年少人口・生産年齢人口は減少。老年人口は、平成 32(2020)年までは増加するが、以後横ばいとなり、平成 52(2040)年以降減少に転じる
- * 平成 52(2040)年には老年人口と生産年齢人口の比率は 1 : 1.3、平成 72(2060)年には 1 : 1 に

IV. 将来展望

1. 人口減少・人口構造変化が地域の将来に与える影響の考察

【生活へ与える影響】

- * 空き家、耕作放棄地の増加により、治安面の不安増大や地域魅力の総合的低下
- * 少子化に伴う学校規模縮小。高齢化に伴う地域活動の担い手減少、一人暮らし高齢者や孤独死の増加
- * 路線バス等の地域公共交通の縮小により交通利便性が低下
- * 医療介護関連サービス等の生活基盤サービスが縮小

【地域経済へ与える影響】

- * 生産年齢人口の減少に伴う活力低下、技術伝承が懸念
- * 人口減少による消費支出の減少、人口構造変化に伴う消費スタイルや支出品目の変化
- * 店舗や売上の減少による地域経済の停滞。購買の選択性が縮小し利便性の高い場所への人口流出も懸念
- * 地価下落等による不動産価値の低下や人口減少によるマンション等の経営困難

【財政へ与える影響】

- * 住民税や固定資産税等の減少と 1 人当たりの負担増大が懸念
- * 老年人口の増加に伴う医療費・社会保障費の増大
- * 生活に必要なサービス維持、防犯、治安維持等の歳出増加
- * 公共施設の再編統合

2. 目指すべき将来の方向

<人口の将来展望>

平成 72(2060)年に 17,000 人

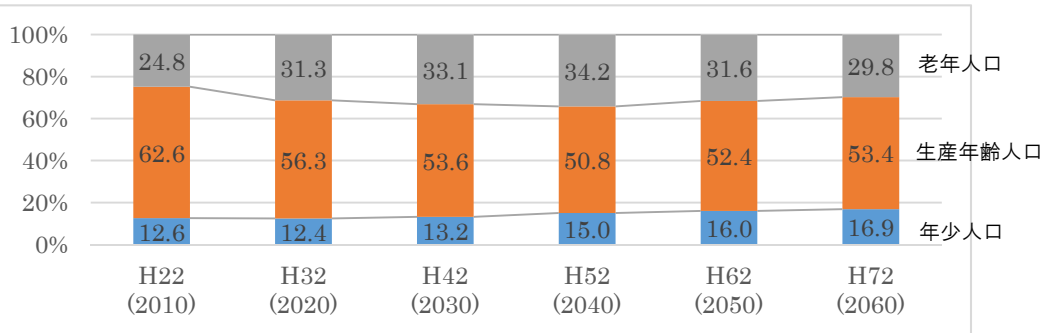
<合計特殊出生率>

○平成 42(2030)年に 1.8、平成 52(2040)年に 2.07 に向上

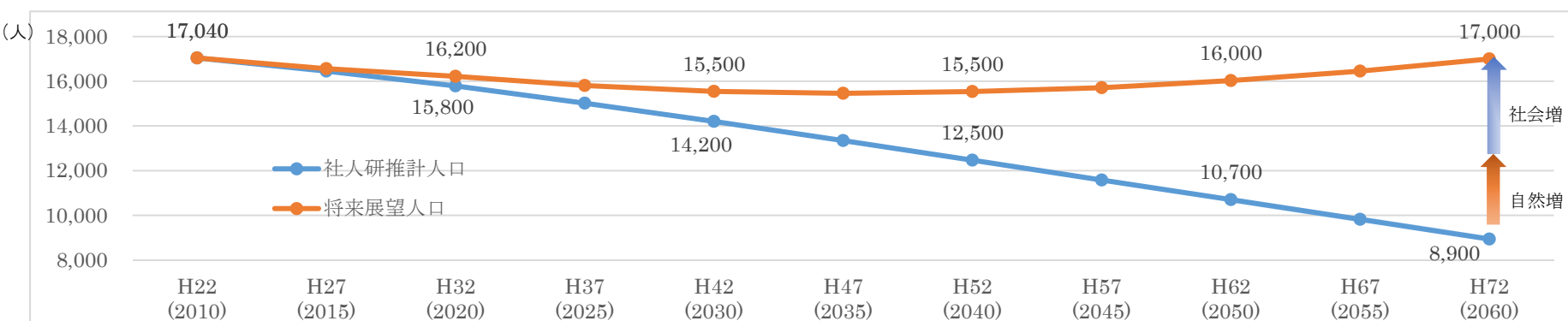
<人口の定着>

○社会増を平成 37(2025)年に 35 人程度、その後徐々に増やし、平成 52 年(2040)年に 120 人程度、平成 72(2060)年には 180 人程度に増やす

【将来展望人口の年齢 3 区分別割合】



【河南町の将来展望人口】



<取り組みの方向性>

住みたいまち、住み続けたいまちを目指して

- ◇子育て・教育等の総合的な支援の充実により、若い世代が魅力を感じる河南町をつくり、出生数の増加を目指す。
- ◇すべての人の生活の場を整え、人口の流出を抑制する。
- ◇暮らしやすさ、環境、仕事等の地域魅力を発信し、活発な地域間・世代間交流や I・J・U ターンを促す。